

報道関係各位

2015年9月14日  
成城大学

## 成城学園100周年記念事業

### 〈小説家・京極夏彦氏も登壇〉

文芸学部公開シンポジウム (参加費無料・事前申込制)



# 怪異を語る



— 伝承と創作のあいだで —

— 日程：平成27年11月21日(土)14:00~17:30/会場：成城大学 —

成城大学(東京都世田谷区 学長：油井 雄二)は、学校法人成城学園創立100周年事業の一環として、広く文学・視覚芸術の分野の専門家と成城大学の教員が登壇する文芸学部公開シンポジウム「怪異を語る」を平成27年11月21日(土)14:00~17:30の日程で、一般の方向けに開催いたします。

## 成城大学が〈妖怪ブーム〉をアカデミックに論じます！

近年、文芸における怪談ブーム、ポピュラー・カルチャーにおける妖怪ブームなどを背景に、「怪異」は特定のジャンルに留まらない注目を集め、さまざまな影響を及ぼすようになっていきます。本シンポジウムでは、小説家・京極夏彦氏、アンソロジスト・東雅夫氏、そして民俗学から『学校の怪談』の著者である常光徹氏をお迎えし、民間伝承からさまざまな創作のあいだで、「怪異とはいかに語られるのか」について、それぞれの立場から論じます。

### 《開催概要》

タイトル：怪異を語る —伝承と創作のあいだで—  
日 時：平成27年11月21日(土)14:00~17:30  
場 所：成城大学  
参加費：無料  
(Webによる事前お申し込みが必要です)

お申し込み：成城学園100周年記念サイト  
<http://www.seijo100th.info/>  
をご参照ください。



本件に関するお問い合わせ

学校法人成城学園 〒157-8511 東京都世田谷区成城 6-1-20

企画広報部 TEL 03-3482-1092 FAX 03-3482-1489 HP [www.sejogakuen.ed.jp/](http://www.sejogakuen.ed.jp/)

## 〈成城大学と民俗学〉

民俗学の創始者のひとりとして高い評価を受けている柳田國男先生は、本学文芸学部の顧問を務めたこともあり、成城大学と深いつながりがあります。成城大学民俗学研究所は柳田國男先生から寄贈された蔵書「柳田文庫」を母体として創られた研究所です。我国における民俗文化の研究センターとしての役割を担うべく、日本の民俗文化及びこれに関連する研究、調査並びに資料の蒐集を行っています。

## 登壇者プロフィール

### ◆パネリスト

#### 京 極 夏彦氏（小説家・意匠家）

1963年生まれ。北海道生まれ。全日本妖怪推進委員会肝煎。『水木しげる漫画大全集』（講談社）監修。1994年『姑獲鳥の夏』でデビュー。1996年『魍魎の匣』で第49回日本推理作家協会賞長編部門受賞。1997年『嗤う伊右衛門』で第25回泉鏡花賞受賞。2003年『覗き小平次』で第16回山本周五郎賞を受賞。2004年『後巷説百物語』で第130回直木賞受賞。2011年『西巷説百物語』で第24回柴田錬三郎賞受賞。

#### 東 雅 夫氏（アンソロジスト、文芸評論家）

早稲田大学日本文学科卒。『幻想文学』編集長を経て、現在は怪談専門誌『幽』編集顧問。ふるさと怪談トークライブ代表。著書『遠野物語と怪談の時代』（角川選書、2010年）で日本推理作家協会賞（評論その他部門）を受賞。著書に『文学の極意は怪談である』（筑摩書房、2012年）、編纂書に『たそがれの人間 佐藤春夫怪異小品集』（平凡社ライブラリー、2015年）、監修書に『怪談えほん』シリーズ（岩崎書店、2011年）ほか多数。

#### 常 光 徹氏（国立歴史民俗博物館名誉教授・民俗学）

國學院大学を卒業後、都内の中学校教員をへて国立歴史民俗博物館教授・総合研究大学院大学教授。現在は名誉教授。博士（民俗学）。著書に『学校の怪談一口承文芸の展開と諸相』（ミネルヴァ書房、1993年）、『しぐさの民俗学—呪術的世界と心性』（ミネルヴァ書房、2006年）、『妖怪の通り道—俗信の想像力』（吉川弘文館、2013年）ほか。児童書に『学校の怪談』シリーズ（講談社）、『怪談レストラン』シリーズ（共著・童心社）など。

#### 太 田 晋氏（成城大学法学部教授・英文学）

東京大学大学院人文科学研究科単位取得退学。現在成城大学法学部教授。専門はモダニズム以降の小説を中心とした英語文学。訳書にリチャード・クライン『煙草は崇高である』（共訳、太田出版、1997年）、ハイメ・マンリケ『優男たち アレナス、ロルカ、プイグ、そして私』（青土社、2006年）、ロバート・イーグルストーン『ホロコーストとポストモダン 歴史・文学・哲学はどう応答したか』（共訳、みすず書房、2013年）など。

#### 喜多崎 親氏（成城大学文芸学部教授・美術史）

早稲田大学大学院文学研究科博士課程中退。国立西洋美術館主任研究官、一橋大学大学院言語社会研究科教授などを経て、現在成城大学文芸学部教授。博士（文学）。専門は19世紀フランス美術史。著書に『聖性の転位 — 19世紀フランスに於ける宗教画の変貌』（三元社、2011年）、編著書に『近代の都市と芸術 2 パリ I — 19世紀の首都』（竹林舎、2014年）、『岩波 西洋美術用語辞典』（益田朋幸と共編著、岩波書店、2005年）など。

### ◆司会

#### 佐藤 光重氏（成城大学文芸学部准教授・米文学）

慶応義塾大学文学研究科単位取得退学、博士（文学）。専門はアメリカ植民地時代のピューリタン文学、ベンジャミン・フランクリン研究、ヘンリー・ソローを中心としたネイチャー・ライティング研究。